

さ ざ ん か

第84号、2008年 10月

実りの秋。台風の直撃もなく順調に育った稲穂たちがいつものようにこがね色の絨毯となって大地を彩っています。稲刈りをする人達の年齢が高齢化していることが気になりますが、皆さん本当にお元気ですね。昔のイメージでは80歳のおじいさんやおばあさんは隠居していて、縁側でお茶を飲みながら日向ぼっこという感じでしたが、最近の高齢者は本当に元気いっぱいです。健康を保つことができれば高齢化社会もまた悪くないなあ、などと思ったりするこの頃です。老化は自然経過であり、けっして病気ではない、とあらためて思います。年をとって少々もの忘れをしたり、足腰が弱くなることは病気とは言いません。自然な人間の経過なので、めげることなく元気で楽しい老後を通しましょう。

さて、10月から脳外科常勤医がいなくなってしまった当院ですが、いまのところ大きな混乱なく経過しています。これまであった診療科がなくなるわけですからしばらくはある程度の混乱は必至ですが、幸いに週に2回の外来診療は継続しておりなんとか住民の方に大きなご迷惑をおかけすることなくやっていけるのではないかと考えております。しかし、内科的治療で対応できる疾患はともかく、手術が必要な患者さんは対応可能な病院へ搬送せざるを得ませんのでその際はご理解の程よろしく願いいたします。

スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋。沢山の秋があります。冬が終わってちょっぴり期待に満ちた春と違い、やや感傷的なイメージのある秋の日ですが、病院現場では地域の健康を守るために春夏秋冬頑張っただけならぬ、と思うのもまた感傷の秋ならではのことも知れません。

俳句

 西屋敷喜美子

秋の風 可も不可も無き 七十年

秋耕や 終わりにて一人 空あおぐ

畦道や 昔のままに 彼岸花

病院からのお知らせ

- * インフルエンザの予防注射は11月4日から開始予定です。(12月28日まで) 市町村から届いた書類を忘れないようにお持ち下さい。
- * 神経内科外来は火曜日が鹿児島大学からの応援医師、それ以外は高橋先生の担当になります。
- * 毎月第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。その他肝臓病外来、糖尿病外来(月、金:福重先生)の専門外来も開設しております。
- * 4月から研修医が当院で1年間の研修を開始しております。米澤英理先生です。よろしくお願いたします。
- * 10月から脳神経外科常勤医がいなくなりました。鹿児島大学病院から応援にきていたいる外来は週2回開設しております。火曜日と金曜日です。お間違えないよう。
- * 骨密度、測ってみられましたか?ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢:あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- * MRIで脳の検査をしてみませんか?目的は脳卒中や認知症(ボケ)の予防につながることがあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変(症状はないけど梗塞がある)がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- * MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します(脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど)。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- * マルチスライスCTで、心臓冠動脈造影ができます。心臓カテーテル検査の代わりにもなることもあります。遠方まで心臓カテーテル検査にいられる方は是非ご検討下さい。その他全身の血管撮影に威力を発揮します。人は血管と共に老いる、といいます。MR血管撮影とあわせて利用できます。ご相談は各科の主治医にどうぞ。心臓の冠動脈造影のときは1泊2日の予定でお考え下さい。下肢の血管造影もCT、MRIを利用して可能です。
- * 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- * 近々「健康教室」を開催予定で現在準備中です。(12月に開催予定)。知りたいこと、ご希望のものがあれば何でも結構ですので外来看護師にお伝え下さい。

感謝 時吉政江

私にも青春がありました。若い日、活動写真を見るのが楽しみな日。「櫛山節考」で、長男が口減らしのために母を背中におぶってでこぼこ道の坂道を登る。母は息子が帰る道がわかるように木の枝をポキポキ折りながら道しるべにする。息子は母を姥捨て山におろし涙でほほ濡らしながら山を走り去る。「おっかあー 雪が降ってくるよー」 泣き叫びながら母は雪の上にむしろをしいて手をあわせて、手を振ってはやく帰れという。そういう手を振る母の姿をあなたたちもきみたちも思い出話に書いてみませんか。

三本の指で大河ドラマの篤姫物語晴着の姿美しいですね。ドラマの中で「そして薩摩では・・・」と桜島がうつる。幾千代も変わることなく太陽が海の水蒸気を美しくオレンジ色や色さまざまに映す。不思議ですネ

私は16年前鹿大病院の9階から心ゆくまでひとりぼっちで眺めたものだった。宮尾登美子さんの序舞も女性が主人公。絵を描くことが好きで恋人に恋の苦しい胸の内。悲しい恋ゆえにそれはそれは美しくあざやかに書かれているそうです。今でもその絵があるそうですが、主人公の名前忘れてしまった。

長野県が舞台になった野麦峠。1千年前から開発の人々がいたらしい。だから今の日本列島があるのだろうか。私は老いてから字を書くのはなかなかです。ましてや難病と仲良くしながら。

野麦峠の活動写真の話を書いてみましょう。山の中の雪が降る坂道を女工さんたちがわらぞうりをはいて風雪の中を歩く。峠を越えて繭から糸を熱い熱いお湯の中から糸口を見つけて糸にする活動写真。悲しい女工さんたちの物語。麦飯を食べて当時食べるもの無しで結核で短い人生。親たちに田んぼを買ってあげて白いごはんを食べさせた女工たちもいて、当時13歳から働いていた物語でした。

私は社員をして働いた時もありました。昭和45年頃から63年頃までは、働け、働けで、残業また残業の時代であった。昭和時代であった。平成の人々は働くためには資格を持っていなければ働く会社が雇用なし。旧小泉首相さんが迅速にやあめーたとインタビューの中で辛かったですネと涙がほほをすらすらと流れていましたネ。政治家として働かれた人生はひとすじの涙だったのでしょ。

新しい麻生太郎首相が国民生活の苦勞を知らない首相だから70歳の人々がタンスに銭を30兆円もっていると平気でいっている。公約とはおおよかに約束しますと。景気対策に取り組んでからの言葉も公約。今は代表質問のないどいじゃなか。〇〇のことでお尋ねがありました。が差し控えさせていただきます。するとワーツといっせいに声が上がった

ている国会ってなんのことやら。まあせいぜい麻生さんにまかせて政治家の人々の知識や能力にまかせて私の一人言にしておきましょう。自分自身のあしものことをじっくりと考えて歩いていこうと思います。(極楽は日に日に近くなりけり、あわれ嬉しき老い暮れかな)

紅葉の季節になりました。北海道からテレビでさまざまな紅葉を上空から見せていただけるカメラマン達に感謝しましょう。ありがとう。入退院のくりかえしの私は退院の日に車イスに財布を忘れて帰ってしまった。どうせからっぽだかと思っていきましたが、師長とぼったり。「財布」大切にあってありました 三十年持って歩いてきた人生の宝物があった。嬉しかったです 財布がふくれることもなく、またふくれて折れないくらい入れられなかったけど、総師さんに10年も考えていたこのトイレに手すりをつけてもらえたらと思いました。バツリ会って話になりました。迅速に取り付けてくださいました 感謝します。ありがとう。

世の中は頭と心と足の勝負

宮園辰夫

人には皆それぞれ特長がある。いかに頭が良くても悪い心では人が信用しない。またどんなに口が上手でも実行が伴わねば人がついて来ない。かと云ってバカでは世渡りできず。

心が良くても動けない病人では役に立たない。個人も会社、世の中は同じである。このバランスが成功につながるかも知れない。

よく年寄りになると足腰から衰えが来ると云うが、活動量(足)が少なければ会社等だって倒産につながる。頭とは方針、知恵、創意工夫であり、心とは人間関係における誠実さ、積極性、感謝の心である。いずれが欠けてもうまくいかない。世の中は人は多いが人材は少ない様に企業も本当にバランスのとれた企業は少ない様である。だからこそ数えられる様な企業になるには日夜努力しなければならない。会社だって病院だって同じである。

つまづいたり、ころんだりしたおかげで、物事を深く考える様になりました。あやまちや失敗も繰り返したおかげで少しずつですが、人のやることを暖かい眼で見られるようになりました。何回も追いつめられたおかげで、人間として自分の弱さとだらしなさをいやというほど知り、だまされたり裏切られたりしたおかげで、親切な人間の暖かさを知りました。色々、偉そうなことを書きましたが、1/3でも真似が出来たらと書き乍ら考えることでした。

今迄もそしてこれからも

私は先日姉弟2人を亡くしました。母は昭和20年11月の15日に52歳で世を去りました。それからは嫁に入って姉が、弟や妹、父の面倒をよく見てくれた。姉に、何一つお返しも出来なかった、それだけが心残り。97歳の生涯でしたから、年に不足はありませんでしたが、満足のいくお返しが出来なかった事が……。また弟は77歳で去って行きました。仲の良い弟であっただけに悔やまれます。生きている内が兄弟で、別れば唯記憶だけです。

ある人が長寿の心得とは、人生は60歳から、1. 70歳でお迎えの来た時は只今留守と言え 1. 80歳でお迎えの来た時はまだまだ早いと言え、1. 90歳でお迎えの来た時はそう急がずとも良いと言え、1. 100歳でお迎えの来た時は頃を見てこちらからポツポツ出かけて行く、そんな思い通りに行けば、蟹も横には歩かない、生まれたからには一度はあの世とやらに行かねばならない、しかも別れてみて初めて淋しさ、悲しさが分かる。

あの世に行って帰って来た人がいないから、分からないが、天国であろう。自分の心の窓からながめた時、世の中が見えないのと同じであろう。患者のみなさん、体に十分気をつけて、お医者様、看護師さん達の注意を守り、少しでも元気になが息しましょう。「朝、眼が覚めて呼吸しているあり難さ」です。でも、現在は長息するのも考えなければなりません。

お役所の人達は余りに頭が良いのか、悪いのか、自分のことだけしか考えていない。税金のムダ使いアレコレ、本当に涙が出る。おそらく東大卒という人も、色々東大もあるから、佐多岬の燈台か、御前崎の燈台か、串木野燈台かも知れない。あまりにも頭が良すぎるのか空っぽなのか、馬鹿なのは国民だ。一人ひとりの国民がもっとしっかりしなければ、天国に行ける人は良いけど、地獄が良い所。お役所の方々はもちろん地獄でしょう。

短歌：冬木立

胃癌手術今終へたりと消毒の匂ひまとめて息子現れる

人体にメス入るる日々重ねつつ息子は四十になりて幼し

俳句

長閑なり 釣舟もいて 島の夏

ほたるがり 昔なつかし 夕すずみ

狂句

診察ち行た亭主を待つ心配な女房

総入歯じや御馳走を食てん味がせじ

貧乏人で良かったなあ ■■■ カラーマン (とその女)

アメリカのサブプライムローンの破綻に端を発した金融危機が騒がれている。実体のうすいマネーゲームが行き着くところにいきついたという感じであろうか。数年前から金融工学というなんか耳慣れない学問がもてはやされていた。経済学というあいまいな学問と工学という厳密な自然科学とを結びつけた不思議な学問だ。(そうだね。普通はありえないわね。文学化学とか、物理哲学とかいうのと似たようなもんだもんね。人文科学と自然科学は根っこは同じにしても決して同化しないものだわ。男と女は人間ってことでは同じだけど、決して同じではないのと一緒よね。)

なんか無理やりこじつけて正しい手法に押し上げわけの分からない人達を煙に巻いて金儲けをしてきたのが金融工学を唱える人々だ。(そう、勝てば官軍。サブプライムローンの破綻があったから、そういうことも言えるのよねえ。また景気が良くなればマネーゲームが復活するかもしれないわよ。偉そうに言わない方がいいかもよ。歴史は繰り返すらしいから。人の欲望は果てしないもの。)

バブル崩壊後、優秀な大学生が国の将来を左右する官僚になるのを敬遠して、外資系の企業に就職することが多くなったという。(まあ、優秀な学生というのを何を持って優秀と言うかどうかは別にして、東大とか京大の学生ってことね。) 安い給料で働いた上、夜遅くまで残業して、終電がなくなったあとタクシーに乗って帰るときにビール一缶もらえば居酒屋タクシーなどと揶揄され、とんでもない税金ドロボー人間だなどと非難されるより、20歳代、30歳代で2千万円、3千万円の年収がある外資系に就職し早めに多額のお金

を貯めて早めに引退し人生を楽しむ、という生き方もまた悪くはないような気もする。というか、ちょっとうらやましくもある。(労働を苦痛、苦役と考えるか、天職と考えるかの差にも拠るのでしょうか。国のためか、金のためか。あたしは若いうちに沢山お金を貯めて、年をとって気力がなくなる前に、世界中を旅行して回りたいなあ。年寄りになってお金持っていて子供や孫にたかられるだけの様な気がするわあ。絶対に国よりお金が大事。)

これはマネーゲームに走ったアメリカの話で、少しは影響があるかもしれないけど日本にはたいした影響はないだろうと思っていたが、やはりそうはいかなかった。もともと資源のない日本では貿易でしか立国できないことは明らかだ。エネルギーも食糧もすべて外国に依存しないと生きていけない日本であれば、いやでもグローバル化の波に乗らないとやっていけない。したがって、貿易相手国であるアメリカ、中国なしでは日本経済は成り立たないのだ。アメリカや中国がこけたら日本もこける、という悲しい現実がある。(エーっそうかしら。わが道を行くという独自の路線もあるのじゃないかしら。江戸時代までは鎖国してたんだし・・・)

その鎖国をやめて以来、ずっとアメリカの背を見て走り、途中中国にちょっかいを出して躓き、多国籍軍相手の戦争に負けて再びアメリカに追従してきたのが今日の日本である以上は、よほどの覚悟がないと、いや、いかなる覚悟があってももう鎖国時代には戻れないだろう。(でも、エネルギーが革新され化石燃料に頼らずに良くなって、食糧も画期的な農法が確立されれば外国に依存しなくても良くなるかも知れないわよ。22世紀くらいには・・・そうね、あと90年くらいもするとかしら)

まさか、ここまでアメリカ経済が落ち込むとは思わなかった人も多いと思う。それでも、リーマンブラザーズが破綻しようが、AIGが苦境に陥ろうが自分には関係ないと思っていた人が大多数だろう。(ちなみにあなたはアリコジャパンの保険に入っているらしいわね)

ところが、不安な老後を抱える人達は、少しでも退職金を増やそうとして一部は株や証券にお金を投資したようだ。今回の株価下落で資産の価値が半分になったとか3分の1になったとかいう人も居るらしい。大体、銀行に預けても雀の涙みたいな利子しかつかないのであれば、老後の収入が年金しかない大方の老人達には銀行はあてにならない。

その超低金利の利子しか払わない銀行が手数料欲しさに資産を増やしましょうとかいって、投資を勧めて売り出しているのだから何をかいわんや、である。分散投資とかいってリスクを減らすとかいっているが、ここまで破綻すると分散した投資先が全滅である。日本人の資産の70%以上は高齢者が保有しているという。(まあ、そうでしょうねえ。だっ

て、平均貯蓄額とか平均資産額を見るとあたしたちからするとウソーって感じだわよ。1千万円の貯蓄なんかしてないって！)

それは数字のマジックと言ういうやつで、10人の人がいて1人が1億円もっていて、後の9人が貯蓄0円でも平均貯蓄額は1000万円になるってことだろう。

もともと余裕のある人は少々の損額を出してもまだ大丈夫だろうが、大事な老後の資金を投資した人たちにとってはおおごとだ。ホリエモンのようにマネーゲームに走って、プライベートジェットとか、豪華クルーザーを購入して汗水たらさず人生を謳歌していた人間が大損をするのを見るのは貧乏人としては心の中で快哉を叫びたいところだが、地道に働いてきた人々が損をするのを見るのはつらい。迂闊に利殖に走るべきじゃなかったのかもしれないが超低金利社会では、それはやむを得ない面もある。しかし、本来は地道に働いて、退職金を貰い、それと年金だけで暮らしていける社会であるべきなのである。コツコツと社会に貢献してきた人々が老後に不安を持たざるを得ない社会は間違っていないだろうか。

(ほんと、そうね。年金制度がしっかりしていて衣食住が確保されれば老後の贅沢はいらないわ。あと年を取って大事なのは何より健康だから医療もしっかりして欲しいわね。「80歳からでも医療保険に入れます」なんてコマーシャルが幅を利かせないような仕組みが欲しいわ。)

まあ、いずれにしろ株を買うとか投資信託にお金を預けるとか、そういう資金的余裕のない貧乏人で良かったと言うのが正直な今の感想である。(なんかそれって負け惜しみとしか思えないわ。だれでも貧乏でよかったなんて思わないもの。お金は大事なのよ。問題はお金は大事だけど、この世で一番大事なものはけっしてない、ということかしらね。)

そうだよな。でもこの世で一番大事なものっていったい何なのだろうか……

編集後記

秋の夜長、いかがお過ごしでしょうか。月を眺めながら酒を飲むのもよし、静かに読書に親しむのもよし。一年のうちでも過ごしやすい時期のひとつです。昼間は運動会や体育祭の季節。そういえば昔々のことですが、運動会の練習で何度も何度も行進の練習とか整列の練習を繰り返していたことを思い出します。時の流れは早いものでいかんともしがたいものである、という当たり前の感慨に耽りしている今日この頃です。(KT)